



清冷寺【せいれいじ】【しょうれんじ】

国道 426 号線沿い、出石川に掛かる天神橋のたもとに位置する集落。名前の由来は京都市右京区嵯峨にある寺院、清冷寺の荘園だった事に由来している。(写真中央は豊岡聖天東楽寺)

【伝統・文化】三木嶋神社



【鳥居】



【参道風景】



【拝殿】

【御祭神】天照御魂神(アマテラスタマノカミ) 【鎮座地】兵庫県豊岡市清冷寺 1132-1。

九日市上町の女代神社の氏子であり、近くを流れる出石川の氾濫を鎮める為の治水の神として祀られている。出石川は昭和10年頃に堤防が出来るまで、たびたび氾濫を繰り返していた。

通常、神社の拝殿は参道の突き当たりに設置されるのが主流であるが、三木嶋神社の拝殿は参道に対して平行に設置されている。ご神体を出石川の方角に向けた為ではないかと推測される。

平成16年の23号台風の堤防決壊により清冷寺地区は水没したが、三木嶋神社は奇跡的に浸水を免れ、境内の森がまるで島のように見えたという。

拝殿手前の狛犬は大正8年設置。灯籠は昭和9年設置。参道に並ぶ灯籠は平成4年設置。また、平成4年に拝殿の改修工事がなされている。そして境内には【祇園牛頭天王】【正一位稻荷大明神】も併せて祀られている。

【伝統・文化】五条六体地蔵



【全景】



【六体地蔵】



【五反の地蔵】



【印塔】



【供養塔】



【土地改良碑】

江戸時代から大正時代まで清冷寺の出村がこの場所にあり、5軒ほど民家が存在していた。

五条と呼ばれたこの場所の近くには、五条川に沿って出石街道が敷かれており、旅の安全を願うお地蔵様として六体地蔵が鎮座していた。五条川は物資運搬の船が行き交い、出石街道は道幅6尺の大街道で、豊岡から京都・大阪へ向かうための主要幹線道路であった。当時この地には宿もあり、但馬ノ国豊岡藩の歴代藩主も利用していた。大正時代には自動車や馬車も行き交い、賑わいを見せていた。

昭和37年の耕地整理、昭和45年の中筋北部土地改良により五条川は排水路へ、街道は農道としてその姿を変え、同時に清冷寺区内各所に散らばっていた【五反の地蔵】【印塔】【念仏供養塔】などもこの地に集められた。お地蔵様には伝統的に紅殻(べんがら)と白墨で化粧が施されており、毎年8月の地蔵盆には子供達の手によって祭られ、化粧直しが行われている。

かつての賑わいが無くなった現在でも、お地蔵様は静かに村人を見守ってくれている。